



VOL. 20 No.2 University of the Ryukyus Library Bulletin. 1987.6.15

開学前夜の図書館 —私の思い出—

学長 東江 康 治

1949年の初夏、沖縄戦で灰じんに帰した首里城跡に、本学の校舍建築が始まっていた。同年の秋、私は図書館の係りを命じられて首里に赴任した。当時私は沖縄外語学校名護分校（名護外語）で英語の教師をしていたが、開校間近い大学の図書館には外国図書が多いので、その整理をして欲しい、ということだった。図書館で働いたことのない者が、大学の図書整理を引き受けるなんて、今から考えると随分無謀な話だが、盲蛇に怖じずというか、21歳になったばかりの若気がそうさせたのだと思う。

私の首里着任は9月の半ば過ぎだったように記憶しているが、その時には木造瓦葺き平屋の教室棟が8棟、キャンパスの両側に4棟ずつ東西に並んで出来上っていた。石造2階建ての本部棟は基

目 次

開学前夜の図書館	東江康治	1	図書館事情	15
沖縄のジャンケンボン「パンパンスー」			〈お知らせ〉	17
の源流を求めて	比嘉政夫	3	・夏季休業中の開館時間と長期貸出について	
琉大図書館の将来を想う	前田正三	5	・就職情報出版物コーナーの設置	
図書館業務電算化通信No 5		7	・ファクシミリ利用案内	
国際資料コーナーの案内(2)		11	医学部分館コーナー	18
図書館運営委員会名簿		14	ブラウジング・コーナー	20

礎工事が始まったところだったが、コの字型木造平屋の図書館棟はまだ着工前だったと思う。具志川市にあった沖縄外語学校がその年の夏の台風で吹き飛ばされ、9月からの授業は開校前の大学校舎で再開されていた。外語学校は本科、速成科、中等教員養成科の3クラス編成で、男子学生の圧倒的に多い学校だったが、首里に移って間もなくタイピスト養成の商業科が設置され、キャンパスには女子学生の姿が目立つようになっていった。

アメリカから送られてきた図書は梱包のまま、教室棟の一室に積み上げられていた。私は、間借り先が決るまでの半月ばかり、その倉庫代りの教室で寝泊りしていた。昼間は外語生や工事現場の作業人で賑わうキャンパスも、夜になると人影の全くない無気味な台地に早変わりした。辺りのしじまに寝つかれぬ夜など、4年前の戦火に斃れた将兵や学徒たちの靈魂が、成佛しえずに夜空をさ迷っているような想いにかられることがあった。

私ひとりでは仕事にならないので、着任後早々に主管の軍政府教育部に掛けあって、とり敢えず2人の職員を採用することにした。おひざ元の首里外語から推薦されてきた我喜屋宗正君（現国場組東京事務所長）と名護外語卒の宮里政邦君（現東京理科大教授）の2人が10月に入ってから一緒に働くようになった。両君とも優秀な上に性格も明るく、開学までの半年余は、苦労もあったが、実に楽しい毎日であった。

倉庫と隣り合わせの教室に書架を作ってもらって仮設図書室とし、まず梱包を解いて図書を並べることから整理作業は始まった。幸い図書の分類は、ワシントンの議会図書館から派遣されてきた2人の女性司書が手伝い、われわれもデューイの10進分類法や図書目録カードの作り方など図書整理の手ほどきを受けることになった。

仮の図書室に陳列された図書は、早速外語学校の教官や学生に利用してもらうことになったが、先生方は室の山でも探しあてたような喜びようだった。中でも照屋彰義先生と平良文太郎先生のお2人は、すさまじいほどの読書ぶり、分厚い文学書を次々借り出しておられた。

当時の思出として残っているもう一つの話は、図書の中にどうしたことか医学書が混っていたことである。カラー写真入りの産婦人科の専門書など、特に男子学生には人気があった。最新のアメリカの医学書とあって、文献の少ない当時の医師にとっては喉から手の出るほど欲しいものだったに違いない。殆どの本が部数が重なっていて、その一部は奄美大島に送られたように記憶している。

年が改まった頃には図書館の建物も竣工し、1月に具志川から移ってきた文教学校の蔵書も引き取り、開学前にもともと図書館の格好だけはつくようになった。書庫に書架を並べて分類ごとに図書を配し、学生が出入りできる自由接架方式をとり、図書カードも最少限のものは揃えたつもりだった。しかし今振り返ってみて、洋書についてはともかくとして、和漢書について殆どみるべきものがなかった。

半年余一緒に働いてきた宮里、我喜屋の両君が揃って5月に開校した本学の入試に合格して辞めることになり、開学当時の本学事務系職員の名簿には、その後任として採用された新垣修氏と中村瑛子さんの氏名が、私の名前と共に記載されている。バイト学生として図書館に出入りしていた鳥袋光子さんと新垣君が、その後共に米国留学で図書館学を修めたばかりでなく、今は結婚して東京

で活躍しておられる。中村さんもその後本土の大学を出て歯科を開業しておられると聞いている。

1950年7月、本学教官の亀川正東、城間正雄の両先生とともにアメリカに留学するために私も図書館を辞めることになった。本学を去るに当って、事務職の私にも学生自治会から花束を贈られたのが嬉しかった。

(あがりえ やすはる：学長)

沖縄のジャンケンポン「パンパンスー」の源流を求めて

比 嘉 政 夫

今日、私たちの日常生活のなかから沖縄の土着的、伝統的なものが急速に失われて来ていることは、衣食住の面だけでなくこどもの遊びのなかにもみられることである。木のぼりや鬼ごっこがなくなり、プラスチックの遊び道具やコンピューターまがいのテレビゲームでこどもたちを室内に閉じ込めてしまうものが人気を得てしまって、ますますこどもの世界からも文化が姿を消していきつつあるのが現状である。無論、このような状況をこどもたちのせいにするわけにはいかない。こどもの世界はおとなの生活の鏡であり、パチンコやスロットマシンのごとき機械的仕組みのはじきだす「偶然」に一喜一憂し、孤独な遊技を楽しんでいるおとなたちの非社交的な娯楽の同一線上に、こどもたちの今のあそびがあるといえる。道路は車に占拠され、散策が楽しめる公園もすくなく、木のぼりができる樹木も見当たらない街づくりをした、おとなたちの政治の弊害にこどもたちはさらされているのである。

十何年前に民俗調査で、宮古の伊良部島の漁村、佐良浜を訪れたとき、大変印象に残ったことは、村のひろばや路傍で遊んでいるこどもたちの数の多さ、そして大きな声を出して元気よく駆けまわっているようすであり、それは私にとって郷愁に似た情感をさそう風景であった。私のふるさと、「シマ」の原風景はまさにそのようなこどもたちのカン高い声がきこえる世界であるが、そのようなこどもたちの姿が見られなくなりつつある今日の地域社会のありかたを、私たちはどのようにとらえたいのだろうか。

さて、こどもたちが遊びのなかで、順序をきめたり組を分けたりするのに今はジャンケンポン（ゲー [石] とチョキ [はさみ] パー [紙] の三すくみの組み合わせで勝負をきめる）をするのが一般的であるが、それは日本全国共通のいわば「標準語」のように学校教育の普及とともに広まったものであろうし、日本の各地域にはそれぞれに土着の「ジャンケンポン」があるはずである。嘗て沖縄でもブーサー（親指、人さし指、小指の組み合わせ）とかウーサニカタジキルー（直訳すれば多い方から決着をつけるということで、参加者が手の表と裏のどちらかを一斉に出し、多い方が抜けて最後まで残る者が負けというやりかた）などの勝負や類別の独自のシステムがあったのであるが、今やこどもたちの遊びの変化とともに忘れ去られようとしている。

そのような沖縄式のシステムの一つとして、私の生まれた那覇市の一角の漁村通称カチヌハナ（垣花）ではパンパンスーというのがあった。それは、「刀」（指を伸ばした右腕を立てるようにかまえ、

左手で右の肘を支えるように軽く纏むポーズ)、「土瓶」(左右の手を握りあい、土瓶の形をつくるポーズ)、「綿」(胸の前で腕を組むポーズ)の組み合わせで、「パンパンスー」と掛け声を合図にそれぞれのポーズをつくるという上半身を大きく動かしての勝負である。「刀」は「土瓶」に(割って)勝ち、「土瓶」は「綿」に(水をかけて)勝ち、「綿」は「刀」に(柔らかくて切られにくいので)勝つという三すくみの原理である。小学校のころはジャンケンをすることは殆どなく、専らのこのパンパンスーで遊んだものである。また、おとながパンパンスーをやることはなくブーサーを使っていた。しぐさが大きいことから、こども専用となっていたかもしれぬ。

ところが戦後少年期の後半を糸満で過ごした私は、そこで遊びの世界における「異文化体験」をしたのである。遊びの名称、道具の呼び方が那覇とは違うし、なによりもパンパンスーがないのが奇妙に感じた。それ以来、「刀」「土瓶」「綿」の組み合わせによるパンパンスーを知っているか、やったことあるかなど、あちらひちらで聞くことにしているが、その分布はかなり狭く那覇市周辺それとごく限られた地域にしか行なわれていないのではないかと考えたりしている。つい最近、よい情報がとびこんできた。作家の嘉陽安男さんが週刊「レキオ」5月8日号の「今昔往来」に、両手を使い手刀や腕組みのポーズをするやりかたでチャイコウとよぶものがこどもの世界にあったことを書いておられる。チャイコウはパンパンスーとはすこし異なるようである。すなわち「刀」のポーズは共通するが、胸で腕を組むのが「綿」ではなく「石」であり、「土瓶」がなく腕を上へ上げる「紙」のポーズがある。嘉陽さんの出身地はたしか那覇の泊であった。若干の相違はあるがチャイコウもパンパンスーとも源流を一つにするものであろう。

今年の春、中国の福建省に出かける機会があり、私はパンパンスーの源流について沖縄と文化的にも関係の深い福建省で何らかのがかりが得られるものと期待していた。チャンスは思いがけず早く到来した。福州市の最近完成したばかりの超近代的ホテル「温泉大厦」で中国国際旅行社福州分社の王賛宇総経理、福建省旅游局の陳宏偉副局長などを交えた宴会に招かれる幸運に接した。その歓談のなかでガイドをしてくれた劉景維さんにパンパンスーのことを尋ねてみたのである。するとパンパンスーというのがあるという返事が返って来た。思わず膝を乗り出して、どのようにするかと聞くとそれは沖縄というブーサーの形式であり、「パンパンスー」と声を出してやるということであった。私の期待は半分かなえられ、半分は空しく消えた。呼称は確かに中国にその源流があった。だが両手を使い「刀」「土瓶」「綿」を戦わせるやりかたは、どの地域の生活様式にその淵源をたどれるかはいまだ判明出来ないでいる。

こどもの遊びも文化であり、私たちの住んでいる地域の歴史を探る貴重な文化財ともなる。生活のすみずみにまで画一化が浸透し、土のかおりのする個性豊かな地域文化が危機を迎えている今、じっくりと子供の世界の文化を掘り起こしてみることもすばらしく、大切なことだと思う。

(ひが まさお：短期大学部教授・文化人類学)

琉大図書館の将来を想う

前田 正三

「北の北大・南の琉大」といえば、この拙文を読んで下さる皆さんは、さまざまな想いを心に画かれることと思います。例えば、歴史的に・・・、地域的に・・・とか。

ここで私が述べたいことは、北の北大と対比して、どうのこうのということではありません。南の琉大が【熱帯・亜熱帯の自然と豊かな海洋に恵まれた沖繩】というすぐれた環境のもとで、南に開かれた国際的な大学として大きく発展していくことへの願いがこめられているからです。

そうして、琉大がこうしたすばらしい自然環境のもとで学術研究の中心的役割を果たすための活動を、発展をとげていくならば。

そのサービス機関としての「琉大図書館」も同じように発展、成長していく必要があることを強張りたいからです。

ユニークコレクション

北の北方資料が有名なように、南の琉大には沖縄関係資料という立派なコレクションがあります。今次の沖縄戦で貴重な資料を全て焼失してしまった県民や琉大にとって沖縄関係資料の整備蒐集事業は全学一体となった強い悲願が込められています。

琉大の創立1951年以来、県外、国外の残されている資料の複製を収集するため学会や出張の都度、所在調査が進められ周到な計画のもとで整備が進められ、今や3万点の資料が蒐集されております。

これらのコレクションを前にしたとき、先人の労苦に頭が下る思いが一入であり、又、3冊に及ぶ沖縄関係資料目録の内容細目にその心を伺い知ることができます。

沖縄県は、県としても全国でもトップクラスの出版量を誇っており、今後の充実が望まれます。

然し、戦前の残された貴重な資料の調査は先輩諸氏から現在も引継がれ地道な努力のもとに進められております。先日も来館された図書館員から本学に所蔵していない資料のコピーをいただき、そのご好意に深く打たれたものでした。全国的にこうした情報の提供がいただけるならこの上もない幸せです。

これからも若い館員諸氏が、こうした熱意を継承され将来に向け整備充実していかれることをお願いしたい。

加えて、図書館業務電算化の図書目録システムが稼動したことにより、沖縄関係資料のデータベース構築を急ぐことが次の課題です。

先づ、1984年9月以降の受入に対しては、入力項目をNCと整合性をもった設定として。

次に、沖縄関係資料目録の3巻にわたる索引の累積版を計画的に進める必要があります。

これら入力経費について全学的なご支援をお願いしたい。

学術雑誌センター

琉球大学は創立以来、全学で購入している外国雑誌を集中的に管理し、共同利用の推進をはかっ

てきた。

集中管理の利点は、現今の雑誌費の高騰による重複購入がなく予算の効率的運用がはかられる。重複購入による学内のスペースが節約できると同時に、管理的要員による専門的なサービスが受けられる。そして、雑誌の選定、受付→利用までの電算化システムを少ない経費で可能にしたことである。

反面、利用者へのサービスとして、新着情報、目次、複写、情報検索サービスが必須条件として相互利用の効果を進展させなければならない。

現在、「学術雑誌見直し検討委員会」が中心となって研究者、図書館員による全学の意見を集約し、利用の実態に促した活動がなされるが、今後ともよりよい運営がはかられることを切望したい。

保存スペースとして学術雑誌は未製本スペースを含めて書庫の大半を占有し、今後とも増大していくことが予想され、県内における学術雑誌センターとして機能していくためにも、書庫の増築は早急に完成する必要がある。海に囲まれた沖縄県の立地条件としては、県内の大学が保存の協力を検討することも今後に残された課題であろう。

琉大図書館の国際化

沖縄県内には、30数カ国の在留外国人をはじめ、米軍基地内にあるアメリカの6大学分校・沖縄国際センターなどの研究者による図書館利用がある。

琉大図書館ではこうした学内研究者はもとより学外利用者のニーズに応えるべく全学的な国際資料室（将来はセンターとして発展すべく）が設置され、国連寄託図書館・EC・OECD・UNESCO・アジア関係の各資料が約1万点配架されている。

こうしたドキュメントの整理やサービスの積極的な提供のためには、必須条件として国際関係・図書館情報学に精通した専門職員の配置が、琉大の国際化へ発展するためにもぜひ必要である。

琉大図書館の将来

を予測するとき、よく現在の図書館の姿を分析せよといわれます。図書館全体が活気にあふれ、いそがしく活動している図書館は必ずといってよいほど大きく発展し成長しているものです。

現在、全国でもトップクラスの貸出状況1つをとってもその盛況を伺うことができ、業務電算化についても1981年より全学の総合情報処理システムのもとでその開発が進められ端末から端末へと新着図書・雑誌情報のオンライン検索、学術雑誌の所蔵や分野別所蔵検索が可能となった。1日も早く現在、入力されている10万冊の開架図書が多角的に検索できるようになることを期待しています。

最後に、情報検索はあくまでも原資料を求める利用者の有力な手段であることを認識し、図書館員本来の「よりよい本を選ぶ」本質を忘れてはならないと思います。

琉大図書館が「豊かで内容のある各主題にわたる」質と量の蔵書がこれからも将来にも成長していくことを念願している次第です。

(まえだ しょうぞう：前・図書館事務部長
現・愛媛大図書館事務部長)

〈図書館業務電算化通信 No 5〉

URISON操作手順

前号でお知らせした学内情報検索システムが4月から使用できるようになりました。

URISON (University of the Ryukyus Information System for Online Network; うりずん) と名付けられたこのシステムは新着案内システムと雑誌所蔵検索システムとからなっています。後者は富士通製の情報検索システム FAIRS を利用しています。学内情報処理センターの TSS 端末からならどこからでも利用できます。

一通りの操作手順を説明します。お試してください。

I. TSSへの入り込み

まずTSSへ入り込みます。

- (1) ディスプレイ装置のパワースイッチを入れます。
- (2) 画面に . . . SYSTEM READY というメッセージが出ますので
LOGON TSS ユーザID ▼ と入力します (注1)
- (3) 画面に ENTER CURRENT PASSWORD FOR . . . と出ますので
パスワード ▼ を 入力します。
- (4) 行数のメッセージが出た後に画面に >> が表示されます。 (注2)

この状態がTSSのコマンドモードの状態です。

(注1) 下線部分を入力します。二重下線部分は各人に応じて変わります。

▼ はエンターキー (実行キーなど) を押すことを示します。以下も同様です。

(注2) 時として>>の代わりに#などの記号である場合もあります。

II. 新着案内システム

対話形式で進めていきます。選択が終わると結果が一括表示されます。

1. 新着案内システムへの入り込み

- (1) コマンドモードの状態
で >> LBR ▼ と入力します。

2. 新着雑誌案内の場合

- (1) 新着案内の画面になりますので、まず雑誌を選んでみます。
==> S ▼ と入力します。
- (2) 表示開始日付の例が画面に出ます。その月の1日が例示されています。
==> 870520 ▼ と入力すると1987年5月20日から今日までに図書館で受け付けられた雑誌の表示を指定したことになります。
- (3) 次に分野区分を選択します。4の自然科学を選んでみましょう。(注3)
==> 4 ▼
- (4) 最後に所蔵館の選択です。0の本館を選んでみましょう。

==> 0 ▼

- (5) 新着雑誌が表示された画面になります。この画面になるまで少々時間がかかることがあります。特に指定期間が長い場合にそのようなこととなりますので、その場合にはしばらくお待ち下さい。

途中で中断したいときは PA1 キーを押します。

画面左下に***があらわれた場合には必ず実行 (エンター) キーを押します。

そうすると次の画面に移ります。

原則として和雑誌は五十音順、洋雑誌はアルファベット順に表示されます。

- (6) 案内が終わると「新着案内終了」と表示されますので実行キーを押します。
 (7) >> が表示されますから、さらに検索を続けたいなら

>> LBR ▼ と入力し、(1) から繰返します。

検索を終了する場合には >> LOGOFF ▼ を入力します。

(注3) 分野区分、所蔵館の選択で特に選択指定をせず実行キーのみを押すと全部を指定したことになります。

3. 新着図書案内の場合

- (1) 新着案内の画面で図書を選びます。

==> B ▼ と入力します。

- (2) 以下は雑誌の場合とほぼ同様です。

III. 雑誌所蔵検索システム

FAIRSを使って検索します。検索結果の集合を作ってそれを適当な大きさの集合に絞り込んでいきます。データベースにはMAGAZINE (洋雑誌)、ZASSI (和雑誌) があります。

ここでは一通りの操作手順を説明してあります。詳しくは「学術雑誌検索の手引」(「びぶりお」Vol.19,no.3,1986.6)を、更に詳しくは「FACOM OSIV FAIRS—I コマンド 文法書」等を参照して下さい。

1. FAIRSの世界への入り込み

- (1) コマンドモードの状態です

>> IRS ▼ と入力します。

2. 洋雑誌検索の場合

- (1) ENTER DB NAME ==> と表示された画面になります。データベースの選択です。

まずMAGAZINE (洋雑誌) を選びましょう。

==> MAGAZINE ▼ と入力します。

- (2) 標題の英日自動翻訳を~という画面になります。ここでは NO を選択します。

N ▼ を入力します。

- (3) RS>が画面に表示されます。次に項目名の一覧が自動的に出て、もう一度RS>が画面に表示されます。RS>の後に検索コマンドとオペランドを組合わせて検索します。まず検索結果集合をつくる検索コマンドSEARCHでTRS:タイトルにAMERICANという単語が

含まれているものを検索してみましょう。

RS> SEA TRS AMERICAN ▼ (SEA はSEARCHの短縮形です)

- (4) 172冊見つかりました と画面に表示されます。

検索結果が多過ぎるので、現集合に条件を加えて絞り込むコマンドAND で絞り込んでみましょう。タイトルにMEDICAL という単語が含まれているものという条件を付け加えます。

RS> AND TRS MEDICAL ▼

- (5) 6冊見つかりました と表示されました。

適当な数なので結果を表示させましょう。集合の内容を表示するコマンドOUTPUTを使います。

RS> OUT ▼ (OUT はOUTPUTの短縮形です)

- (6) 該当雑誌の情報が画面に表示されます。もし画面左下に***が表示されたら必ず実行キーを押して下さい。次の画面に変わります。

- (7) 終わるとRS>が表示されますから、更に検索を続けたい場合はまた最初から始めます。

FAIRSを終了する場合にはEND ▼ を入力し、>が表示されたところでLOGOFF ▼ を入力して下さい。

対象とするデータベースを切り替えたいければ RS) のあとに SEL ZASSI ▼ と入力します。

3. 和雑誌の所蔵検索の場合

- (1) 和雑誌のデータベースには入り込むには、以下の2通りの方法があります。

- ① ENTER DB NAME ==> が表示されている時に ZASSI ▼ を入力する。
- ② RS) が表示されている時に SEL ZASSI ▼ を入力する。

- (2) タイトルに沖縄という文字の含まれている雑誌を検索してみましょう。

RS) SEA TRS 沖縄 ▼ と入力します。(注4)

- (3) 6冊見つかりました と画面に表示されます。

該当レコードの1番目から4番目までを表示させてみましょう。

RS) OUT R(1:4) ▼

- (4) 該当雑誌の所蔵情報が画面に表示されます。

以下は原則的に洋雑誌の場合と同様です。

(注4) 漢字変換の方法は端末の種類によって違います。ここではF6682Bの場合で簡単に説明します。

①拡張機能キーを押しながらローマ字キーを押します。画面の下に「日本語ひらがな(ロ)」と表示されます。ローマ字漢字変換ができることを示しています。

②OKINAWA と打つと画面に「おきなわ」とひらがなが表示されます。

③変換キーを押すと漢字の「沖縄」に変換されます。

URISONについてのお問い合わせは内線2146学術情報係へ。

(学術情報係)

図書館業務電算化日録

昭和62年3月～5月

- 3月6日(金) 富士通との打合せ
12日(木) 学情センターの目録システム、教育モード分離テスト
13日(金) 富士通との打合せ
19日(木) 学内情報検索システム稼働披露式
25日(水) URISON館内講習会
26日(木) 実務者打合せ(第5回)
27日(金) 富士通との打合せ
4月2日(木) 実務者打合せ(第6回)
3日(金) DIALOG使用再開
9日(木) 富士通講習会「BASICプログラミング」(那覇、～10日)
金城学術情報係員参加
10日(金) 実務者打合せ(第7回)
16日(木) 実務者打合せ(第8回)
17日(金) 富士通との話合い
27日(月) 実務者打合せ(第9回)
30日(木) 実務者打合せ(第10回)
5月1日(金) 実務者打合せ(第11回)
13日(水) ワーキンググループ(第1回)、実務者打合せ(第12回)
15日(金) 富士通との打合せ
18日(月) 情報処理センター長との打合せ
19日(月) 医分館電算化スケジュール検討
20日(水) 実務者打合せ(第13回)
26日(火) 富士通講習会「COBOL基礎」(那覇、～29日)
赤嶺整理係員参加

国際資料コーナーの案内 (2)

UN (国連) 資料

当館は学内の強い要望にもとづいて、国連寄託図書館の指定要請を行ったところ、昭和61年1月に寄託図書館に指定する旨、ダグ・ハマースホルド図書館長から通知があった。その後資料が順調に送られてきており、3階雑誌室の国際資料コーナーにEC資料・OECD資料などと共に配架され利用に供されている。琉球大学の国際交流化が盛んになるにつれて、これらの国際資料の利用がますます向上していくものと思われる。

国際資料の増加数はいちじるしく、国連資料だけでも年間約10棚分、長さにして9メートルの増加が見込まれている。このペースでいくと現在の国際資料コーナーのスペースでは対応できない状況に追い込まれるのは時間の問題である。

今回はEC資料に関する記事を掲載したが、今回はUN寄託図書館システムについての概略と当館の受贈資料リストを掲載する。

国連資料は加盟各国政府・省庁や非加盟国政府へは無料で送られる。また世界各地にある関連国際機関や国連広報センターおよび国連寄託図書館の約半数にも出版物・公式記録・ドキュメント・広報資料などが無料で送られてくるが、後述するように残り半数は有料システムである。

現在、国連寄託図書館は全世界に320余館あり、国連本部とダグ・ハマースホルド図書館を中心に各国の国連広報センターを介して世界的ネットワークを形成している。日本には国会図書館をはじめ21の寄託図書館があり、国連広報センターを核に相互協力の輪ができています。

寄託図書館には無料と有料の2つの形態がある。無料寄託図書館は全国連加盟国・非加盟国・信託統治非自治地域の一つ置くことができるもので、通常は国立図書館が首都にある主要研究図書館であるが、他に一般公開の議会図書館も無料寄託図書館になれる。アメリカ合衆国では議会図書館(LC)1館が、日本では東大と国会図書館の2館がそれに相当する。

有料寄託とは、システムを維持するための負担金を支払う寄託システムのことであり、負担金の額は全部寄託か部分寄託か、開発国か途上国かによって異なり、全部寄託の場合は960ドルである。琉球大学は全部寄託システムであるから年額960ドルを支払うことになっている。

有料寄託図書館の指定にあたっては、高等教育研究機関やそれに近いレベルの図書館であること、人口や地域・距離を考慮し、少なくとも1つの都市には1つ以上置かないこと、必要度と関心度が高いこと等が勘案される。

琉球大学が寄託図書館に指定されたのは、以上の条件を充たしていると高く評価されたからであろう。

わが国で21番目に寄託図書館に指定された当館は、県内唯一の国連寄託図書館である。負担金960ドルを支払っているが、送られてくる資料の量と質に比べると高い金額ではないと思う。

従って図書館の増築に当たっては、UN・EC・OECD・UNESCO・アジア研究資料等を置く国際資料室を設置し、国際資料関係の詳細な目録の整備等を図り、利用者に迅速・適確に求め

る情報を提供する必要がある。そのためには専門職員2人の配置が望ましい。あらゆる寄託図書館においては、寄託された資料を資格ある図書館員のもとに収集・整理し、無料で公共の利用に供すること、と国連側でも規則にうたっている。

なお当寄託図書館では、学内の教官・学生だけでなく、学外の方へも国際資料の公開を行っている。(引用及び参考：日本における国際機関資料センターの現状(程島俊介)・東京大学図書館情報学セミナー研究集録No19 1983)

LIST OF PUBLICATIONS BY THE UNITED NATIONS

1. General Assembly-Official Records-Plenary Meetings.
2. Permanent Missions to the United Nations.
3. Commemoration of the Fortieth Anniversary of the United Nations.
4. Index to Proceedings of the Economic and Social Council.
5. Index to Proceedings of the Security Council.
6. DESI (Division for Economic and Social Information)
7. ATAS Bulletin (Advanced Technical Alert System)
8. Analysis of Engineering and Technical Assistance Consultancy Contracts.
9. Doubling Development Finance.
10. National Legislation and Regulations Relating to Transnational Corporations.
11. Transnational Corporations in the International Semiconductor Industry.
12. Transnational Corporations in South Africa and Namibia:
13. UNCTIC Current Studies, Ser. A.
14. Regional Development Dialogue.
15. World Economic Survey.
16. Development Papers.
17. Economic Bulletin.
18. Energy Resources Development Ser.
19. Japanese Grains Model (Michael Lopez)
20. Mineral resources development Ser.
21. Proceedings of the Regional Seminar on Systems Analysis for Water Resources Development.
22. Quarterly Bulletin of Statistics for Asia and the Pacific.
23. Small Industry Bulletin for Asia and the Pacific.
24. Statistical Indicators for Asia and the Pacific.
25. Statistical Yearbook for Asia and the Pacific.
26. UNDOC: Current Index.
27. UNDP Compendium of Approved Projects.
28. United Nations Decade for Women, 1976-1985.

29. Women News.
30. The Law of the Sea.
31. Repertory of Practice of United Nations Organs Supplement.
32. Conference on Security, Disarmament and Development in Africa . . .
33. Disarmament;
34. Report of the Committee on the development and Utilization of New and Renewable Sources of Energy .
35. Population Bulletin of the United Nations.
36. Population Growth and Policies in Mega-Cities, Seoul.
37. Special Bulletin on the Commemoration of the International Day of Solidarity with the Palestinian People, 1985.
38. United Nation Centre Against Apartheid.
39. Industrial Statistics Yearbook.
40. Monthly Bulletin of Statistics.
41. National Accounts Statistics: Main Aggregates and Detailed Tables.
42. National Accounts Statistics: Government Accounts and Tables.
43. Statistics Papers, Ser. D.
44. Studies in Methods, Ser. F.
45. Statistical Papers, Ser. M.
46. World Comparisons of Purchasing Power and Real Product for 1980.
47. Commission on Human Rights: Supplement.
48. General Assembly-Official Records:
49. Resolutions and Decisions of the Security Council.
50. Report of the United Nations Visiting Mission to the Trust Territory of the Pacific Islands: Supplement.
51. Report of the Special Committee on the Situation with Regard to the Implementation of the Declaration of the Granting of Independence to Colonial Countries and Peoples.
52. Report of the Preparatory Committee of the Whole for the Special Session of the General Assembly on the Critical Economic Situation in Africa.
53. Report of the Committee on the Elimination of Disclimination against Women.
54. Report of the United Nations Council for Namibia.
55. Report of the Committee for Programme and Co-ordination...
56. Report of the Trade and Development Board .
57. Statement of Treaties and International Agreements.
58. Trusteeship Council Official Records, Fifty-first Session.
59. Trusteeship Council Official Records, Fifty-second Session.

60. Current Bibliographical Information.

61. United Nations Publications.

図書館運営委員会委員名簿

昭和62年4月1日付で、図書館運営委員会委員が変わりました。

委員は次のとおりです。

昭和62年 4月1日現在

部 局	職 名	専 攻	氏 名	任 期	電 話 番 号
図 書 館	館長	農 産 施 設 工 学	國 府 田 佳 弘	自昭和60年10月1日 至昭和62年9月30日	
医学部分館	分館長	生理学講座 (第一教室)	金 城 清 勝	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
法 文 学 部	助教授	中国文学及 び琉球文学	上 里 賢 一	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
〃	助教授	社会政策 及び経済史	松 田 賀 孝	自昭和62年4月1日 至昭和64年3月31日	
教育学部	教 授	家庭管理	新 垣 都 代 子	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
〃	教 授	代数学及び 幾 何 学	前 原 潤	自昭和62年4月1日 至昭和64年3月31日	
理 学 部	助教授	力 学	神 里 常 雄	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
〃	教 授	分析科学	平 良 初 男	自昭和62年4月1日 至昭和64年3月31日	
医 学 部	教 授	基礎保健学 講 座	加 納 隆 至	自昭和61年10月1日 至昭和63年9月30日	
〃	教 授	内科学講座 (第二内科)	三 村 悟 郎	自昭和60年10月1日 至昭和62年9月30日	
工 学 部	助教授	建設構造学	森 下 陽 一	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
〃	教 授	土質工学及 び衛生工学	上 原 方 成	自昭和62年4月1日 至昭和64年3月31日	
農 学 部	助教授	農 産 施 設 工 学	秋 永 孝 義	自昭和61年5月1日 至昭和63年4月30日	
〃	助教授	土壌学及び 植物栄養学	渡 嘉 敷 義 浩	自昭和62年4月1日 至昭和64年3月31日	
教 養 部	教 授	地 学	古 川 博 恭	自昭和61年12月1日 至昭和63年3月31日	
〃	教 授	文 学	仲 程 昌 徳	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
短期大学部	教 授	文化人類学	比 嘉 政 夫	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	
〃	助教授	機械材料及 び機械工作	屋 良 秀 夫	自昭和61年4月1日 至昭和63年3月31日	

図 書 館 事 情

[第171回図書館運営委員会]

日 時：昭和62年3月9日（月）

場 所：図書館会議室

議 題：1. 大型コレクションについて
2. 昭和63年度概算要求事項について
3. その他

報告事項：1. 学術雑誌見直し検討委員会報告
2. 沖縄研究資料調査収集小委員会報告
3. 台湾大学総図書館との総合交流について
4. 矢内原忠雄先生蔵書の受贈について
5. 学内情報検索システムのサービス開始について
6. ファクシミリの設置について
7. その他

[出張]

昭和62年3月11日（水）事務部長 前田正三、総務係 玉城実

図書館資料の調査及び整理並びにファクシミリの納入検査、西表・12日まで

昭和62年3月24日（火）事務部長 前田正三

事務連絡、松山・26日まで

昭和62年3月25日（水）整理課長 尾崎一雄

沖縄関係資料の調査、大阪・27日まで

昭和62年3月25日（水）総務係長 照谷浩一、閲覧係長 宮島恵曠

図書館相互協力について及び退官教官・学者への貸出実態について、鳥取・27日まで

昭和62年3月25日（水）医学部分館閲覧係長 野原敏弘

医学部図書館における利用者教育について調査、高知・徳島・香川・28日まで

昭和62年3月25日（水）閲覧係 本永順子、分館整理係 平陽子

退官教官・学者への貸出実態及び図書館の雑誌受入のコンピューター化についての調査、熊本・26日まで

昭和62年4月23日（木）館長 國府田佳弘、事務部長 重松多喜造、整理課長 尾崎一雄

第17回九州地区国立大学図書館協議会及び第38回九州地区大学図書館協議会総会出席、佐賀・25日まで

昭和62年5月18日（月）整理課長 尾崎一雄

学術情報システム特別委員会ネットワーク専門委員会出席

昭和62年5月19日（火）事務部長 重松多喜造、整理課長 尾崎一雄

昭和62年度国立大学附属図書館事務部長課長会議出席及び学術情報センター並びに矢内原忠雄先生の蔵書寄贈についての打ち合せ、東京・22日まで

昭和62年5月27日(水) 参考調査係 岡本淳子

第8回EDCセミナー参加

〔来館者〕

昭和62年3月9日(月) 学術情報センター 管理部長：伊藤公紘氏、総務係長：渡辺道夫氏

昭和62年3月10日(火) 国立国会図書館協力部支部図書館課長補佐：高田維美氏

昭和62年3月17日(火) 大阪大学附属図書館事務部長：高澤格雄氏

昭和62年3月19日(木) 文部省学術情報課長：西尾理弘氏、大学図書館係長：原三郎氏

昭和62年3月20日(金) 慶応大学：津田良成教授

昭和62年3月23日(月) 熊本大学附属図書館整理課長：重松多喜造氏

昭和62年4月30日(木) 東京学芸大学附属図書館：小林文人館長

〔人事異動(昭和62年4月1日付)〕

事務部長：重松多喜造(前熊本大学附属図書館整理課長)

前事務部長：前田正三 愛媛大学附属図書館事務部長へ

前整理課受入係：砂川善則 医学部医事課受入係へ

整理課整理係長：金城照子(前整理課整理係)

閲覧課医学部分館閲覧係長：平陽子(前整理課医学部分館整理係)

整理課受入係：本永順子(前閲覧課閲覧係)

整理課受入係：知念勝(前学生部厚生課学生係)

整理課受入係：慶田恭二(前閲覧課参考調査係)

整理課受入係：赤嶺久夫(医学部管理課用度第二係)

整理課整理係：辺土名恵子(前閲覧課閲覧係)

整理課整理係：渡辺由紀子 新採用

整理課医学部分館整理係：垣花るり子(前閲覧課医学分館閲覧係)

整理課医学部分館整理係：久保田隆弘(前整理課受入係)

閲覧課閲覧係：渡慶次安子(前整理課受入係)

閲覧課閲覧係：金城真理子(前閲覧課参考調査係)

閲覧課参考調査係：山里道子(前整理課整理係)

閲覧課参考調査係：岡本淳子(前整理課整理係)

(昭和62年3月31日付)

前整理課整理係長：新城安善 定年退官

前閲覧課医学部分館閲覧係長：野原敏弘 定年退官

~~~~~(お知らせ)~~~~~

●夏季休業中の開館時間と長期貸出について

1. 開館時間 (7月8日～8月31日)

月～金 08:30～17:00

土 08:30～12:30

(日曜・祭日は閉館)

2. 長期貸出 (6月29日～8月31日) 返却期間は9月12日まで

長期貸出期間中は下記のとおり一般図書の貸出冊数制限

が変更になります。大いに利用してください。

	学生	院生・研究生
一般図書	7冊 (5)	15冊 (10)
指定図書	3冊	3冊
沖縄開架	2冊	2冊
アメリカ研究	3冊	5冊
計	15冊	25冊

●就職情報出版物コーナーの設置

学生部厚生課の委託により、3階ブラウジングコーナーに全国の会社などの企画情報を掲載した出版物200冊あまりを設置しました。原則として館内閲覧ですが、どうしても借出したいという方には相談に応じますので2階貸出カウンターへ申出てください。

●ファクシミリ利用案内

4月13日より3階事務室にファクシミリが設置され、利用できるようになりました。今後は西表島の附属熱帯農学研究施設からの複写申込みがファクシミリによってできるようになりました。また将来、附属実習林(与那)や熱帯海洋科学センター(本部)にファクシミリが設置されれば、複写申込みが迅速に行なえるようになります。

なお毎年入試期間中の3月10日～4月10日までは学生部で使用することになっております。

ファクシミリ電話番号09889-5-2651

医学部分館コーナー

〈オリエンテーション〉

昭和62年4月9日(木) 11:30~12:00

医学部新入生の分館利用オリエンテーション実施。

昭和62年4月28日(火) 15:00~17:10(受講4人)

精神神経科学講座卒後研修生の図書館利用及び情報検索オリエンテーション実施。

昭和62年5月21日(木) 13:10~15:10(受講8人) 及び昭和62年5月28日(木) 13:10~15:10(受講3人)

医学科大学院生の図書館利用及び情報検索オリエンテーション実施。

〈ファクシミリの設置について〉

医学部分館にもファクシミリが設置され本年3月12日(木)より本館、分館間の図書館サービス用として利用出来ることになりました。

〈文献複写機の機種変更について〉

本年4月より従来のゼロックス機から本館と同じリコピー機を設置することになり磁気カードも共通して使用出来ることになりました。

〈本館、分館間公用車日々配車始まる〉

従来、本館、分館間は週2回(火・金)の配車がありました。本年4月23日より毎日午後三時に配車することにより事務の円滑化をはかることになりました。

〈来館者〉

昭和62年5月11日 那覇看護学校：比嘉文子 教諭他2名

〈寄贈図書〉

昭和61年1月から昭和62年4月までにご寄贈いただいた主な分を掲載します。

中 田 福 市 (第一化学教授)	生化学 vol37他200冊
佐 野 南海子 (故佐野一教授夫人)	人類学講座 8巻他約900冊
柘 山 幸志郎 (第3内科教授)	ビデオテープ「高血圧シリーズ」1-5
小 張 一 峰 (前病院長)	今日の治療指針他約200冊
Dr. Y. B. Talwkar (中部病院ハワイ大学卒後 研修プログラム小児科教授)	Quarterly Cumulative Index Medicus vol 1-60 (1927'-56) 60冊
荻 野 洋 一 (聖マリアンナ 医学大学教授)	Zentralblatt Für Hals-nasenund Ohrenhikunede vol 1-38 (36欠) (1922'-43) 36冊

〈お知らせ〉

〈夏季休業中の開館時間〉

- 7月7日（火）まで夜間開館〔午後9時〕を行います。
7月8日（水）～8月31日（月）までは午後5時まで開館。
ただし、土曜日は昼の12時半まで。
9月1日（火）から夜間開館を行います。

〈長期貸出し〉

6月20日から行います。（貸出し期間は9月10日までの2ヶ月間です。）

視聴覚機器の設置

今日、医学教育及び指導、研究になくてはならないのが視聴覚機器ですが分館では、医学科創設設備費により昭和60年度及び61年度の2ケ年に亘り下記の機器が購入され、教官を始め学生の利用に供されております。

機器の主なものは次のとおりです。

1. 編集機器	一式
(イ) Uマチック編集機	3台
(ロ) Beta編集機	2台
(ハ) VHS編集機	1台
(ニ) ジェン ロッカー（文字入力機）	1台
2. 学習用ビデオテープレコーダー	4台
3. ビデオカメラ	一式
4. ビデオディスクプレーヤー	1台
5. サウンドスライドプロセクター	1台
6. データービューアー（教材提示装置機）	1台

萩野洋一聖マリアンナ医科大学教授へ感謝状を贈呈

聖マリアンナ医科大学形成外科学萩野洋一教授は、この程附属図書館医学部分館に貴重な学術雑誌を寄贈され、國府田佳弘附属図書館長より感謝状が贈呈されました。

寄贈されました“Zentralblatt Für Hals-nasen-und Ohrenheilkunde” Bd. 1～38 (1922-43、うち36巻欠)は、御尊父故萩野朝一氏が愛蔵されていたもので今日では金では買えない大変貴重な学術雑誌といわれております。

分館では、資料の充実を喜ぶとともに早めに整理して利用に供したいと思っております。

なお、分館への寄贈については本学医学部耳鼻咽喉科野田寛教授の計らいによるものであります。参考までにこの学術誌の所蔵状況は、次のとおりになっております。

Bd. 109(1974)－115(1977),130(1984)＋

ブラウジング・コーナー

環境の然らしむるところ

女子職員に電話が入った。「うりずんはどうしますか。」「うりずん？ 私には関係ないでしょう。」安里にある琉球料理店うりずんのことを言っていると思いこんでの応答である。確かに女子職員は飲屋とはあまり関係ないはずだ。「いや、関係ないとは言わないでください。うりずんの研修は全職員が受けてみんながオペレートできるようにしなければなりませんので。」それでやっと了解できた彼女は不明を恥じ、謝まらざるを得なくなった。それにしてもこのような誤解を生ずるような環境は浄化しなければならないとつくづく思いました。苦しい建前論ですが、本音は言わぬが花でしょう。「URISON＝ウリズン」とはUniversity of the Ryukyus Information for Online Networkの略で学内情報検索システムのことであります。

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第20巻 第2号 [通巻第75号]

昭和62年6月15日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話 (09889) 5-2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会